

じょうもん 縄文時代



邑久町豊原には、縄文時代の集落の近くにあった、大橋貝塚があります。

縄文時代の人々は、季節ごとに海や川や山などでとれる食べ物を食べていました。今でいう「旬」の食べ物を工夫して食べていたため、縄文人はグルメだったとも言われています。

大橋貝塚の近くは、今は山のふもとで、周りは住宅が立ち並んでいます。海の貝が獲れたということは、すぐ近くまで、海が広がっていたということになります。この貝塚では、シジミやカキ、ハイガイなどたくさんの貝殻が今でも見られます。

A 大橋貝塚

やよい 弥生時代



邑久町尾張に、弥生時代の遺跡「門田貝塚史跡公園」があります。

弥生時代は、米作りがさかんに行われるようになり、大きなむらを作って集団で生活するようになったと言われています。門田貝塚からは、弥生土器や石包丁など、当時の生活用品がたくさん出土しています。

この公園では、復元された「たて穴住居」を見ることができます。弥生時代の人々が、どのような生活していたのかを想像してみるの、どうでしょうか。

また、近くの瀬戸内市民図書館には、貝塚の様子をパネルにしたものを展示しています。迫力ありますよ。

B 門田貝塚史跡公園
C 瀬戸内市民図書館

こぶん 古墳時代



つきやま こぶん 築山古墳

瀬戸内市にいくつ古墳があると思いますか。なんと大小合わせて500基ほどあるんです。その中でも、おすすめのお勧めの古墳を2基ご紹介いたします。

まずは、「築山古墳」です。全長82mの前方後円墳です。後円部の頂上では、家形の石棺を見ることができます。

次に、「馬塚古墳」です。直径約25mの円墳です。この古墳では、横穴式石室の中に入ることができます。石室に使われているとても大きな石を見て、ここで眠っていた人が、どんな力をもっていたのかを想像してみるのもいいかもしれませんね。

D 築山古墳
E 馬塚古墳

まつか こぶん 馬塚古墳

あすかなら 飛鳥・奈良時代



すえき 須恵器

瀬戸内市では、主に飛鳥時代から奈良時代にかけて、たくさんの須恵器が焼かれていました。

須恵器は、それまでの土器と違い、轆轤で形を作り、登り窯を使って、高温で焼きました。そのため、薄くて硬く、水が漏れにくい焼き物に仕上げることができました。この技術は、大陸から渡ってきた渡来人によってもたらされたものです。

これらの須恵器は、須恵古代館と寒風陶芸会館で見ることができます。

F 須恵古代館
G 寒風陶芸会館

へいあん 平安時代



ごちよらいざぞう 五智如来坐像

やくしよらいざぞう 薬師如来坐像

牛窓町千手の千手山弘法寺遍明院と邑久町北島のうへら山餘慶寺には、平安時代の国風文化の特徴をよく表した仏像が安置されています。

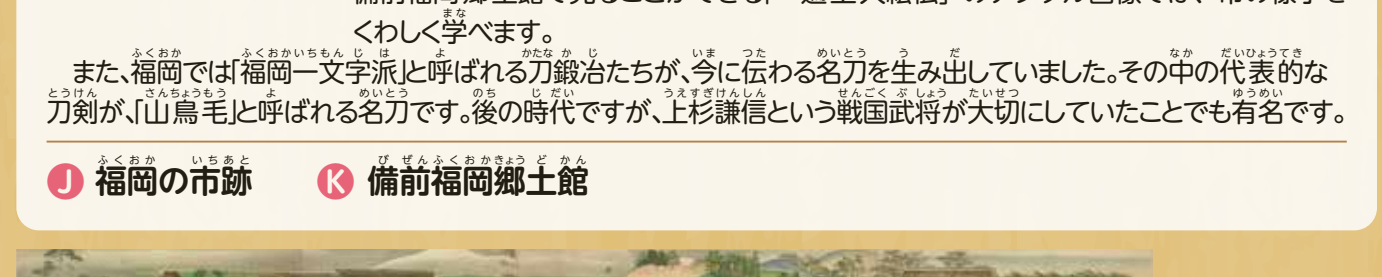
千手山弘法寺遍明院の「五智如来坐像」は、一年に一度、5月5日の「脚供養」の日には拝観することができます。

上寺山餘慶寺の「薬師如来坐像」は、春の「桜まつり」(4月1日～4月8日)と寺宝展(10月中旬の十五夜の頃)の時に拝観することができます。

どちらも、国指定重要文化財です。約1000年前の美しい仏像をみて、国風文化を味わってみてください。

H 千手山弘法寺遍明院
I 上寺山餘慶寺

かまくら 鎌倉時代



鎌倉時代には商業が発達し、現在の長船町福岡では、大きな市が開かれていました。備前福岡郷土館で見ることができる「一遍上人絵伝」のデジタル画像では、市の様子をくわしく学べます。

また、福岡では福岡一文字派と呼ばれる刀鍛冶たちが、今に伝わる名刀を生み出していました。その中の代表的な刀剣が、「山鳥毛」と呼ばれる名刀です。後の時代ですが、上杉謙信という戦国武将が大切にしていたことでも有名です。

J 福岡の市跡 **K** 備前福岡郷土館

しゅつてん 出典：
こくりつこっかい としよかんぞう 国立国会図書館蔵
いっぺんしようにん え でん 一遍上人絵伝